

これからの タックル&仕掛け

多くの方は竿を持参するとしても2本くらいでしょう。好みもあるので一概にはいえませんが、HHHのように硬めの竿が好きの方はMH175のように、中間的な竿よりや硬めを、逆にS180のように軟らかめの竿が好きの方はリミテッド175あたりを目安に、予備として持参することをすすめます。

何度も言うように、今シーズンは高水温がまだに収まっておらず、カワハギの食い方も日替わりで違ってきます。1本の竿に固執しないで柔軟に対応することが必要です。

仕掛けは枝間10センチをパイロットとして、2種のバリエーションを図示しました。加えてアシスト20~40センチを持参すればほぼカバーできるでしょう。



▲終盤はHHHで拾い釣り



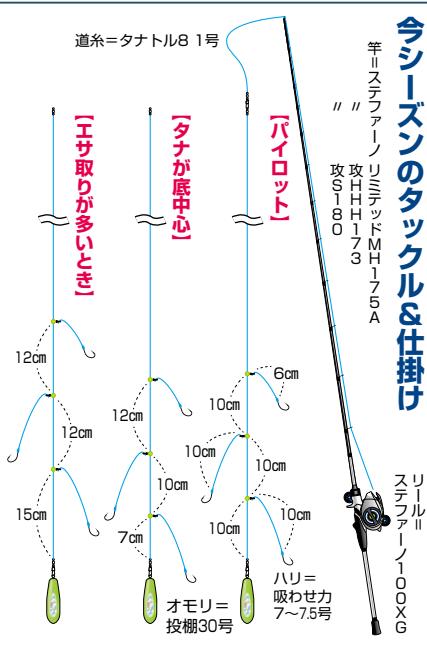
▲持参したのは3パターンの仕掛け



▲2隻の大型船にたくさんのカワハギファン



▲当日はMH175で掛けに行く釣り方



▲乗船者も中型ぞろい楽しめた

もう少し水温が下がれば群れも固まってくるはず。館山沖のカワハギはこれからが本格的なシーズンとなるでしょう。



▲一荷釣りが2回、この群れがとどまってくれば

この日は2隻出し、ほぼ満船状態での出船、

H。逆に活性が低く、掛けにくいとバレルたりするときは「ステファアーノ攻S180」という使い分けをしています。

このほかに「ステファアーノ攻17SP」

11月初旬の休日、釣果急上昇の報を聞いて出かけたのは南房洲ノ崎栄ノ浦港の早川丸です。トップ60枚と聞いてジツとしていられないのは皆さんも同じでしょう。

この日は2隻出し、ほぼ満船状態での出船、

私は左舷ミヨシに席を取りました。まず30分ほど走った館山湾内の水深30メートル、2日前に入れ食いになったポイントで釣り開始です。館山湾は私のホームグラウンド、数え切れないほど釣行しているので、ある程度状況は読めている……はずでした。

オモリは30号、例によってスタートはMH175を使用します。ところがまったくアタリのないまま、次のポイントへ移動します。何度目かの移動後、左舷トモから順に竿が曲がり始め、ようやく最後に私の竿にもアタリがきて20センチ級の1枚目を釣り上げます。

など常時3本以上の竿を持参していくのは今シーズン、いまだ高水温のせいか釣り場の状況が読みにくいからです。

まるでマルイカ釣り

11月初旬の休日、釣果急上昇の報を聞いて出かけたのは南房洲ノ崎栄ノ浦港の早川丸です。トップ60枚と聞いてジツとしていられないのは皆さんも同じでしょう。

この日は2隻出し、ほぼ満船状態での出船、

私は左舷ミヨシに席を取りました。まず30分ほど走った館山湾内の水深30メートル、2日前に入れ食いになったポイントで釣り開始です。館山湾は私のホームグラウンド、数え切れないほど釣行しているので、ある程度状況は読めている……はずでした。

オモリは30号、例によってスタートはMH175を使用します。ところがまったくアタリのないまま、次のポイントへ移動します。何度目かの移動後、左舷トモから順に竿が曲がり始め、ようやく最後に私の竿にもアタリがきて20センチ級の1枚目を釣り上げます。

TAKASHI SUZUKI KAWAHAGI FISHING TECHNIQUE SNIPER'S METHOD

◎鈴木孝のスナイパーズメソッド 第47回



群れ自体は大きいので、一荷釣りは頻繁に見られた

ステファアーノ 新製品での 今シーズンの カワハギ攻略

★11月に入ってようやく各地のカワハギ模様が上向き、シマノのステファアーノシリーズも本格的な出番を迎えたといえるでしょう。今回から新製品2本をメインに使用しつつ、関東エリアの代表的な釣り場の攻略法を解説していきたいと思ひます。まず、私のホームグラウンド館山沖からです。

解説◎鈴木 孝

少し前まではこのままシーズン終了か、とも思えたカワハギが、ようやく上向いてきました。やはり原因は高水温でしょう、海の中は1ヶ月ほど遅れて秋を迎えた感じですが、東京湾周辺でもいまだ20度以上もありますが、なんとか例年並みの釣果が出るようになってきました。

これから釣行を計画している方も多いと思うので、私がおすすめする今期のタックル選び、釣り方などを解説してみます。



●館山沖は3本の竿を持参し、状況で使い分ける作戦

前者は従来品「ステファアーノリミテッド175」よりやや硬め、HHHは文字どおり超硬調子。どちらも速い釣りに対応する掛けにくいタイプです。

ただ釣り場にもよりますが、今の時点では捕食スピードにバラツキがあり、一概に掛けにくいタイプがベストとは言ひ切れません。

たえば東京湾竹岡沖。通常なら軟らかめの竿で、集寄などを使って底中心のタナを横の釣りで攻めていくのがセオリーです。アタリがきたら竿の柔軟性を生かしつつ合わせにいけばある程度掛かってくれますが、エサを取られるだけだったり、2度目、3度目のアタリを出さないような場合は、硬めの竿で速めに掛けにくい方法もあります。

